

磯谷博史

Hirofumi Isoya

1978年東京都生まれ。

東京藝術大学建築科を卒業後、同大学大学院先端芸術表現科およびロンドン大学ゴールドスミスカレッジで美術を学ぶ。写真や彫刻の制作を通して、現実の認識や、物質と時間の関係性を探求している。空間、作品、観者の関係を振付と捉え、認識を揺さぶり、想像力に現実の思索を委ねる展示体験を編む。

近年の主な展覧会に『PRADA Mode Tokyo』（東京都庭園美術館、東京 /2023）、『動詞を見つける』（小海町高原美術館、長野 /2022）、『Constellations: Photographs in Dialogue』（サンフランシスコ近代美術館、サンフランシスコ /2021）、『L' image et son double』（ポンピドゥー・センター、パリ /2021）、『『さあ、もう行きなさい』鳥は言う『真実も度を越すと人間には耐えられないから』（SCAI PIRAMIDE、東京 /2021）、『シンコペーション：世紀の巨匠たちと現代アート』（ポーラ美術館、神奈川 /2019）、『六本木クロッシング 2019：つないでみる』（森美術館、東京 /2019）、『アルル国際写真フェスティバル -Le spectre du surréalisme』（Les Forges、アルル /2017）など。

主な作品の収蔵先に、ポンピドゥー・センター（パリ）、サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ）などがある。

主な個展：

2025「パンゲアの破片」板室温泉大黒屋、栃木

2023「今日と、持続」ARTRO、京都

2022「動詞を見つける」小海町高原美術館、長野

2021「『さあ、もう行きなさい』鳥は言う『真実も度を越すと人間には耐えられないから』」SCAI PIRAMIDE、東京

2018「流れを原型として」青山目黒、東京

主なグループ展：

2023「PRADA Mode Tokyo」東京都庭園美術館、東京

2021「Constellations: Photographs in Dialogue」サンフランシスコ近代美術館、サンフランシスコ

2021「L' Image et son double」ポンピドゥー・センター、パリ

2020「インタラクティブ：響きあうところ」富山市ガラス美術館、富山

2019「シンコペーション：世紀の巨匠たちと現代アート」ポーラ美術館、神奈川

2019「六本木クロッシング 2019：つないでみる」森美術館、東京

2017「アルル国際写真フェスティバル：The Specter of Surrealism」Les Forges、アルル、フランス

主なパブリックコレクション：

2019 サンフランシスコ近代美術館、サンフランシスコ

2015 ポンピドゥー・センター、パリ

その他：

2016-2017 プロジェクトスペース statements 共同ディレクター